

令和元年度 第3回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び
協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

- 1 審議会名 令和元年度第3回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働の
まちづくり推進行動計画策定・評価委員会
- 2 日 時 令和2年1月15日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで
- 3 会 場 安曇野市役所 本庁舎 2階 会議室 201
- 4 出席者 磯野会長、細川副会長、中楨委員、瀧澤委員、浅見委員、山田委員
吉田委員、大澤委員、小澤委員、亀井委員、丸山委員、望月委員
- 5 担当課出席者 宮澤市民生活部長、地域づくり課 山田課長、青柳係長、矢下主査
藤原主事、土屋地域おこし協力隊員
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 1人 記者 1人
- 8 会議概要作成年月日 令和2年1月23日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 協議事項
- ① 市民活動サポートセンターの課題について
- ② 先進地視察研修について
- ③ その他
- (4) その他
- (5) 閉会

2 会議事項概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ【会長】
- (3) 協議事項
- ① 市民活動サポートセンターの課題について

会 長 今回の協議ではグループ分けをして、顔の見える中で意見交換を行いたいと考えているが、その形式で進めてよろしいか。

全 員 「 同意 」

会 長 1時間の中で2つの課題に対する時間配分はグループの自由とする。課題2については、まず情報コーナーを見学してから意見交換を行うこと。発表者を決めていただき、最後に発表をしていただく。

事務局より資料1に基づき説明

<グループ1、グループ2に分かれて意見交換>

課題1 協働コーディネーターの育成

課題2 情報コーナーの活用

<グループごとの発表>

委員 ▼グループ1のまとめ 発表

課題1についてであるが、市民活動サポートセンターに登録されている162団体の区や団体の中から、熱い思いのある人たちが集まって団体をつくり、運営していけるようになれば良い。市では団体が集まって交流する機会を設けていることから、そこから気運が高まり動いていけると良いと思う。

課題2については、理想とすれば、民間の団体が市民活動サポートセンターを運営することで、いろいろな工夫ができる。市で運営するとなると制約も多く、難しい部分があるが、民間の団体ではもっと自由にいろいろなことができる。チラシが置いてあるだけではなく、相談ができたり、イベントができていたりすることなど、人が集まる仕掛けづくりが必要。情報発信の場であるので、区の情報も集まってくれば良いと思う。

待っているだけでは、たくさんの人に来てもらえない。地域に出ていくことも合わせてやっていくことが必要である。庁舎では多くの審議会が行われているので、その会議を利用して、チラシを配布するなど、PRに力をいれていくことが大事である。

委員 ▼グループ2のまとめ 発表

議論する中で、そもそも協働コーディネーターがどのようなことをやっているのか、地域リーダーはそんな簡単に養成できるものなのか、といった疑問も投げかけられた。

情報発信をもっと行っていく必要がある。まず市の広報誌やホームページを活用して、市民活動サポートセンター、協働コーディネーターの存在を広く周知していくことが必要。課題1では、区という単位でのまちづくりに焦点をあてた話になったが、区のイベントの中でリーダーとなる卵を発掘すること、特技や技術を持った人たちを発見してその人たちの活動を他の活動につなげていくこと、協働コーディネーターについて、地域に周知し理解を深めていくことが必要となる。

課題の2については、市民活動サポートセンターは情報発信の場だけでなく、人が集える場所となるべきであり、活動する人が集まって、情報を交換、共有する場所が必要。また協働コーディネーターが研修を受けたり、好事例を学んだりして、それをもって地域に戻っていくような場となれば良い。それには人が集まるハコが必要になる。ハコを造るのは難しいと思うが、今の場所でやるのであれば、パーティションで分けてスペースを設ける等、もう少し工夫が必要となる。

会長 全体を聞いたうえで何かあればご意見をいただきたい。

委員 2つのグループの発表とは逸れるかもしれないが、私も地域で活動をしていて、発足当時、行政と地域で協働してまちづくりをしたことが出発であった。今日の話し合いでは、「住民がもっと主体的になる」「市が前にでると市の主導となってしまう」といった意見があったが、ほとんどの住民には地域活動のノウハウがない。行政の方たちが今まで培ってきた様々な力をぜひ地域に生かしていただきたいと思う。通信を発行したり、いいまちサロンを通して地域課題に合った学習をしたりすることで、ひとりひとりの人生が質の高いものとなり、それが基盤となって地域のいろいろな課題に目が向いていくのではと考え活動を行っているが、そこでは地域課の人たちの協力が大きい。夜の会議にも出ていただいております、通信の作成においても、いろいろと応じてくれる。双方が協働を通して高まりながら、地域課題に目を向け、まだまだもっと力をつけていく必要がある。

市民活動サポートセンターは来るのを待っているのではなく、その地域の中で、どのような活動をして、どのような課題があるのか、その場で意見交換しながらやっていくことが大事であると感じる。

これから超高齢化、少子化が進み、大規模災害の発生が予測される中、それに向けて、どうやって地域力を高めていくか考えていかなければならない。

委員 両方のグループの話を聞いているなかで共通していたものは、アウトリーチ（出かけてニーズを吸い取ってくる）の重要性、場があること、その場で人が集えること、情報がきちんと手に入ること、市から情報発信がなされること。素晴らしい活動をしている方たちがいるのに、他の人に周知されない。また、国や県や市がつくった素晴らしい制度が現場におりていない。それは非常にもったいない。そこをつなぐのがサポートセンター。情報、人、制度について、上手く流れるように拾ヶ堰の水門のような役目を担うのがサポートセンターであると思った。情報コーナーはチラシを置く場所だけでなく、パーテーションと自由に語り合える場、情報の流れを推進する人を置いていただきたいと思った。そのあたりから整えていただくと、少し動き出すと思った。

委員 グループ1、グループ2の発表の共通点として、熱い思いの人やリーダーの卵の発掘、講座を受けるだけではリーダーになれるわけではない、といった意見が多くあった。アンテナをはって熱い思いをもった人たちを引き込めればと思った。

地域課には温度差があると思うが、地域課との協働について良いと感じた。

<意見交換 その他の意見>

課題1

- ・リーダーのやる気が地域活性化につながる。
- ・強力なリーダーシップは反発をうむ。コーディネーターの人間性（人徳）が大切になる。

- ・コーディネーター養成講座を受けた人たちが今どうしているのか、どうしたら実際の活動につながるかを知るために、受講者にアンケートを取ったらどうか。
- ・コーディネーター養成講座を受けた人や区長など、やる気のある人を1人にしてはいけない。共有するハブになるのがサポートセンター。

課題2

- ・「市民活動サポートセンターに相談に来てください」と言われても、なかなかそれだけでは相談に行きにくい。具体的な相談例をあげ、「例えばこんな相談に乗りますよ」というように周知したらいいのではないか。
- ・区とは違った視点で意見をもらえる場所がほしい。
- ・庁舎カウンターでは、ざっくばらんに話ができない。
- ・行けばアドバイスをもらえるというメリットが必要となる。
- ・好事例を配信していくことが必要。
- ・サポートセンターの場所が分かりづらく目に留まらないため、文字だけでなく絵を使ったり、パネルやキャラクターの利用や設置されているテレビ(モニタ)の映像を工夫したりすることが必要。
- ・サポートセンター職員として、週2くらいで登録団体の中から人を派遣して時間を決めて居てもらうのはどうか。ただ居てもらうのは難しいので、本庁舎の会議室やロビーを団体で使えるようにして、その団体の会議のついでにサポートセンターに居てもらおうといった形にすれば居る方にもメリットがある。

② 先進地視察研修について

事務局より資料2に基づき説明

視察先：茅野市市民活動センター「ゆいわーく茅野」に決定

(8) その他

次回会議予定 3月24日(火) 13:30～

(9) 閉会